

平成28年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン在宅・地域医療実習

実習生：丸屋 安広

実習先：ホーム・ホスピス中尾クリニック

実習期間：平成28年5月19日（木）～5月25日（水）

実習生感想：

平成28年5月19日から5月25日の1週間、大学院のがん専門医師養成コースの一環で長与町にある中尾クリニックで在宅医療実習をさせていただきました。

この1週間、在宅で緩和医療を受けられている様々な種類のがん患者さんをはじめとした様々な疾患を持たれた患者さんの訪問診療や大学病院での退院前カンファランス、緩和ケアのカンファランスに同行し勉強させていただきました。

院長の中尾勘一郎先生は私が所属する第二外科の大先輩で長年外科医として勤務された後に緩和医療の道に進まれた先生で、がん治療と緩和医療の知識が豊富な先生です。更にパートナーの看護師の黒田さんは緩和ケアの認定看護師の資格を持たれており、お二人とも長年にわたり長崎県の緩和医療講習会で指導をされている緩和医療のスペシャリストです。



まず想像以上に色々なことが在宅医療で出来るということを勉強できました。例えば胃瘻の交換は病院だと交換後に内視鏡を用いて確認を行いますが、在宅ではインジゴカルミンや食紅を薄めた色素を一旦注入し交換した胃瘻から胃内容物が混じった色素の逆流があることで胃内に挿入されていることを確認しておりました。更に胃瘻が自宅で抜けてしまった場合でも細径の内視鏡を患者さんの自宅に持っていき確認をすることで交換が可能です。実習中に胃瘻交換を行った神経系の難治性疾患の患者さんの御家族は、これまでは胃瘻の交換の度に病院まで連れていかなくては行かなかったが、中尾先生の訪問診療を受けるようになったから御自宅で安心して交換が出来るため非常に助かっていると仰っていたことが印象的でした。



また、長崎県はあじさいネットを通じて地域の開業の先生と大学病院をはじめとした中核病院が患者さんの病状経過や各種検査を共有するシステムが出来ております。中尾先生のクリニックでもタブレット端末からこのシステムに入ることによって検査結果を参照できるため、患者さんの御自宅でCTなどの検査結果を説明されていることに驚きました。今後さまざまなテクノロジーが進歩することで、これまで病院でしか出来なかったことが在宅でも出来るようになっていくのだろうと感じました。



また、中尾先生の診療に1週間同行し、在宅医療には多種多様な疾患を抱えている患者さんのため総合的な医学知識とマネジメント力が必要だということが分かりました。患者さんの疾患だけではなく御家族の状況、介護保険をはじめとした受けられる公的サービス、家の構造までも考えて診療にあたられておりました。中尾先生は1人ひとり異なる状況で御本人御家族の身体的精神的な負担をなるべく少なく出来るように日々考え

られ診療されておりました。この包括的なマネジメントは病院で主治医として患者さんの診療に当たるうえでも、重要であると考えられました。高齢化社会が進み、医療費が国の財政を圧迫していることから在宅医療の普及は不可欠です。そのためには、病院勤務の医師が在宅医療の実態を理解していないといけません。今回1週間と短期間ではありましたが地域医療を支えていらっしゃる中尾先生の元で勉強できたことは私の医師人生にとって貴重な経験になりました。

現在、東京で研究センターの生活を送っている私にとって、全人的な医療を実践されている中尾先生の診療、考え方に触れることが出来て医師という職業について色々と考えさせられました。臨床に戻ってから、この経験を生かせるようにしたいと思います。

今回、無理な実習日程に応じてくれた中尾先生はじめ中尾クリニックの皆様、芦澤教授はじめ臨床腫瘍学の皆様、本当にありがとうございました。



実習報告会にて